



家庭の同行^{どうぎょう} 3

くひき出されてゆく生きる力

やまの茂吉(和田重良)

- 穴のあきそうな心を「充たしてくれる」もの
- つないだ手は離さない「信じている」こと
- あそこに帰れば迎えてくれること
- 「あんしんできる」こと

気分屋のワガママに負けないコツ

「好き嫌い」と行動の動機

家庭のバランスが崩れるもとに「ワガママ」があります。

人間は多かれ少なかれ、種類は違えど、どこかしら「ワガママ」なものです。それが極端になりすぎると、集団のバランスを崩してしまい、その行く先は「孤立」だったりするのです。

時として「ワガママ」は横暴になったりして行くのですからグルリの人が困ってしまうのです。一番困らされるのが「気分屋」です。逆に言うと「気分屋」はたいいてい「ワガママ」です。

先日も、「食パンの耳は絶対に食べない」と自慢している子が続けて2人ほくの目の前に現われました。

いいですよ、食べなくなつて、別に誰も困りませんから、それどころかほくの所ではニワトリも犬もパンの耳は大好きですから……。でも、そんなワガママ言っていたら自分が損しているのですよ。

案の定、この二人共「気分屋」の「ワガママ」を振り回し、お父さんもお母さんも手こずっているのです。そのうえ、お母さんもお父さんも「ワガママ」に負けているのです。

和田重正言葉抄

新しい道へ

行き話ったところが新たな道の出発点だ。経済、人間関係、健康についてさ。つまりわれわれの運命のすべてについてこの言葉は当てはまる。ただしそれは当事者が真心をつくして当たったときのことだ。もしケチな根性を出して狡く立ちまわれば行詰まりは次の混乱を呼び遅しなく続くだろう。日本の社会も、人類社会も正に行き詰まりに差しかかっている。このまま行けば長くは保たずに潰滅状態に陥るだろう。

しかし悲観するにはまだ早い。陰極まれば陽に転ずる。だがそれは紙の裏裏がひっくり返るようになるというのではない。陰の中に陽が芽生えるというこ

その中心的課題であるのが、行動の選択の動機として「好き、嫌い」が絶対的価値を持つてしまっているということです。ここが大問題を生む元となっているのです。

「好き、嫌い」の感情は行動選択の動機の一部ではあるのですが、一番重要なものではない筈です。

そういうことを深く考えもしないで、「好きなことをしろ」みたいなことや「嫌いと言えるのはエライ」などと単純に思ってしまうのです。深味がないですね。

相手のご機嫌取りは誰のためになる？

「子どものご機嫌取り」がお母さんの仕事になつてしまつて、そのうち子どもがワガママで気分屋の天下になつてしまつた、なんていうケースをたくさん見て来ました。

気の毒なのは、自己と他者の関係性が受けとれないまま大きくなつてしまつた「ワガママ」です。そのどろろが変なのを親から伝えてもらえなかつたのですから悲劇です。ワガママが通らなければ誰かグルリの人が

悪いのですから、「人のせい」になつてしまっています。

お母さんが子どものご機嫌取りをしていると、目先のことで子どものためになつていくようにも、実はよく考えるとお母さんのためだつたりするものですから、近い将来「ワガママ」な気分屋に振りまわされて困ることになるのです。

もう一つ、気分屋の「ワガママ」を育てているお父さんお母さんのよくやつてしまう手があります。

「約束」と「取り引き」です。子どもの意欲の動機づけに、この二つをウマク使っているつもりで、そのうちままと「ワガママ」にやられていきます。

大事な時は一歩も引かない

「約束」と「取り引き」は家庭だけでなく、学校でも一般社会でも、国家間でもよく使われる手です。しかし、それはそれしか方法がないと思つているのと、他に奥の手や別の手を持つているのとでは効果のほどが違うのです。

本ページをお読みになった読者の皆様からのご家庭での実行、実践についてのレポートを800字以内で募集します。その後、和田先生からのコメントや提言が行きます。しめ切りは毎月15日、お返事は月末までにまとめて出します。

とである。この政治と教育の闇黒の中に新たな時代の芽生えが見られるというのである。その芽生えをさらに誘発して育てて、明るい新時代を招こうというのである。陰極まりつつある今、それは可能だとわれわれは信じて疑わないのだ。

(昭和55年 くだかけ二十二号より)

お父さんやお母さんが、「ワガママ」防止のためと思つて「約束」と「取り引き」だけをバカの一つ覚えでやつていては裏をかかれるのは必定です。

幼児期に、欲しいものをねだるのに場所もわきまえず、親の都合も考えず、むやみにデータをコネル子がいます。よく見る光景です。それが、小学生になり中学生になつても、いやもつと大人になつてお父さんになつていても同じことをやつていっている人がいるのです。

「大事な時は一歩も引かない」という親の態度、心構えが絶対に必要な時があつた筈です。それなのに「一歩も引かない」どころか、すぐ他の手を探して、楽しようとするのである。あの弱い大関の負けパターンは「引き技」でしよ。引き技はつけこまれるのです。

「大事な時とは？」

そこで気がつくのは、「ワガママ」な気分屋を作つていいる親の様子を見ると一つの特徴があります。「大事」の条件がコロコロ変わるのです。

難しいこと言う価値基準がどこにあるのかわからないということ。とここで、僕自身はどんな「大事」の基準を持つているかということを参考に出してみます。(これは僕のものですからあくまで参考です。各自それぞれ考えてみて下さい)



- ① 生命(せいめい)
 - ② 個の尊厳(そんげん)
 - ③ 心の交流：すなわち平和(へいわ)
 - ④ 個の育ち(あいてのそだち)
 - ⑤ 自己の育ち(こうじょう)
 - ⑥ 損得(そんとく)：ほんとうの
 - ⑦ 利益(りやく)：よかつたね
 - ⑧ 調和(バランス)
- と言つたような順で判断しているのです。これはあくまでも他者との関係の中での価値基準です。自分だけの価値基準だと、順も違えば別項目も出て来ます。子どもや他者に向かう時、ここは引けないという「大事」のランク順です。